

# あおぞら

第55号



## 医療理念

1. 医療の原点に立った心温まる医療  
【Humanism】
2. 高度医療の提供  
【High Level】
3. 職員一同連携し仕事を通じての  
人間的成長 【High Growth】

## 目次

ごあいさつ	2
就任のあいさつ	3
排便障害ケアチームが設立されました	4
連携病院のご紹介	5
院内デイケアチーム“絆”	6
春季防災訓練を行って	7
外来週間診療予定表	8

特定医療法人

# ごあいさつ

事務長  
引地 啓太



書中お見舞い申し上げます。

患者の皆様、地域を支える医療関係者の方、当院に関係するすべてのステークホルダーの方々にはいつも一方ならぬお力添えにあずかり、まことに有難うございます。

昭和54年6月に当院はこの地に開業致しました。今年度は41周年に当たります。

最初はわずか4名の内科医師だけの病院でしたが、現在は多彩な診療科による外来診療を行っております。また入院診療では、急性期病棟、地域包括ケア病床を備え、地域の医療機関はもちろんのこと救急告知病院として緊急の患者さんにも対応しております。

今後も地域医療構想の実現を目指し、地域に密着した医療機関として切れ目のない医療の提供を行うと共に、さらなる医療安全体制の確立、救急医療の充実、医療スタッフの充実、地域の皆様が求める良質で安全・安心な医療を提供できる診療体制を整備してまいる所存ですのでどうぞご理解、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

「新型コロナウイルスに感染するのは、本人が悪い!？」

日本人は米国や英国などと比べて、そう考えていた人の割合が高い、という調査結果が報告されました。国内で感染者が非難されたり、差別されたりしたことと、こうした意識が関係している可能性があるとしています。

調査は、日本、米国、英国、イタリア、中国の5か国で各国500人から回答を得ました。

「感染する人は自業自得だと思うか」との質問に、「全く思わない」から「非常に思う」まで賛否の程度を6段階で尋ねました。

その結果、「どちらかと言えばそう思う」「ややそう思う」「非常にそう思う」の3つの答えのいずれかを選んだのは、米国1%、英国1.4%、イタリア2.5%、中国4.8%だったのに対して、日本は11.5%と突出して高かったのです。

反対に「全く思わない」と答えた人は、他の4か国は60~70%台でしたが、日本は29%に止まりました。

「日本ではコロナに限らず、本来なら被害者のはずの人が過剰に責められる傾向があります。通り魔被害に遭った人が「深夜に出歩く方が悪い」などと責められることもある。

こうした意識が、感染は本人の責任とみなす考えにつながっている可能性がある」

他人のアラを探し出し執拗に攻撃する悪しき風潮が広がる中、心に余裕を持って他愛の精神でありたいものです。

夏、真っ盛りです。

3密ではない場所では、酸欠にならないよう深呼吸をして乗り切りましょう。

## 就任のあいさつ

心臓血管外科  
古賀 清和



2020年4月より佐賀大学附属病院胸部外科の人事にて光晴会病院心臓血管外科に赴任してきました。5月より古賀秀剛医師が大学附属病院へ転勤となり、当科部長を拝命いたしました。

光晴会病院における心臓血管外科の歴史は1996年に須田久雄先生のもとで開設され、これまで歴任の部長(末永悦郎先生、蒲原啓司先生、古賀秀剛先生)のもと長崎市北部からその近郊地域のみならず長崎県内の心臓血管外科診療に尽力されてこられました。これまで2000例を超える心臓手術が行われており我々の教室の関連病院の中でもいち早く小切開手術、ステントグラフトなど低侵襲手術を導入し先進的な施設でありました。自分自身も光晴会病院の心臓血管外科を羨望のまなざしで見えておりました。この度、この長崎の地で重要な役割を受け継ぐこととなり、身の引き締まる思いです。

私自身は2000年に佐賀医科大学胸部外科に入局し、その後九州内の関連病院(のべ10施設)にて多くの施設の先生方にご指導いただき心臓血管外科医として研鑽を積んでまいりました。途中2007年4月よりアメリカニューヨークにありますElmezzi Graduate School of Molecular Medicineにて4年間大学院にて基礎研究を行い、PhD(博士号)を取得しました。東日本大震災のあった2011年3月に日本に帰国しその後は臨床に専念し、福岡徳洲会病

院、新古賀病院、福岡和白病院で勤務し大隅鹿屋病院を経て現在に至ります。治療にあたってきた対象疾患は虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)、心臓弁膜症(大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症など)、大動脈疾患(大動脈解離や大動脈瘤など)などの心臓疾患が中心ではありますが他にも腹部末梢血管や透析用血管(シャント造設術)、下肢静脈瘤など心臓以外の血管疾患もしっかりと対応して行きたいと思えます。また、急を要する疾患が多く含まれるのも当科の特徴です。これまで同様、近隣の開業医の先生および循環器科の先生、救急隊の方々と協力し定期症例のみならず緊急症例にも安心して紹介いただけるよう体制を維持してまいります。これまでの心臓血管外科を支えてきた優れたCo-medical(看護師、臨床工学師、放射線技師、検査技師、理学療法士、作業療法士など)のみんなと心臓血管外科チームとしてさら成長していき地域の医療に貢献していきたいと思えます。

低侵襲化が進む循環器領域の治療ではありますがまだまだ侵襲の大きな手術や困難な手術を必要とする患者さんもおられます。患者および御家族には納得して治療を受けていただけるように説明をすることを心がけております。これからも治療を受けた患者様およびご家族が満足していただける治療を提供していきたいと思えます。

# 排便障害ケアチームが設立されました

近年日本においては、便秘や便失禁といった排便障害の有病率が増加傾向にあります。しかしながら、患者さんは「便秘や便失禁で病院に行きづらい」と感じ、医療者側は「排便障害はそれほど真剣に治す必要もないのでは」というような認識があるようです。排便障害があると抑うつ状態や不安状態となり、心身ともに不健康な状態になっていくことが少なくありません。私たちは、便秘や便失禁を少しでも改善することにより「生活の質」を高め、より良い社会生活を送って頂けるような医療を提供できればと考えています。

当院では、外科岡田が2019年9月に日本大腸肛門病学会専門医(Ⅱb:肛門科)を取得したことをきっかけとして、2020年2月に医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・栄養士・理学療法士・臨床工学技士・医師事務作業補助者・システムエンジニア(SE)などを中心とした排便障害ケアチームが設立されました(写真1)。

当院の外来ならびに病棟の看護師や医師事務補助者ならびにSEなどの協力を得て、便秘や便失禁に対する様々な問診表が作成されました。治療の前後で排便に伴う自覚症状や「生活の質」がどのように変化したかを確認することにより、当院における治療の効果をできるだけ客観的に評価するように心掛けています。

当科外来では、デジタル anoscope という直腸・肛門専用のカメラシステムを用いて、診察時の画像(動画、静止画)を患者さんに見てもらいながら説明を行っています(写真2)。また、痔瘻や肛門周囲膿瘍などに対する経肛門エコーが可能となり、膿瘍の位置や痔瘻の走行などを術前ならびに術中に評価しながら手術が行えるようになりました。さらに痔瘻手術の前後において、臨床検査技師による直腸肛門内圧検査(写真3)を行うことにより、術後の肛門機能が温存されていることを確認しています。

排便障害ケアチーム設立後、放射線技師による疑似便を用いた排便造影が可能となり、便秘や便失禁の診断がより適切にできるようになりました。排便造影はバリウムに増粘剤を混ぜた疑似便を経肛門的に注入し、プライバシーが保たれた個室空間で透視下に排便してもらうことにより、便の排出障害の有無とその原因を診断することができます(写真4)。また、便秘や便失禁で悩んでいる患者さんに対しては、薬剤師による服薬指導や栄養士による栄養指導、ならびに理学療法士によるリハビリテーションが積極的に行われており、少しずつ治療効果が得られるようになってきています。

今後は排便障害に対するリハビリの一種であるバイオフィードバック療法を本格的に導入し、便秘・便失禁の専門外来を開設するとともに、便失禁の患者さんに対して効果が期待されている刺激装置の植え込みによる仙骨神経刺激療法(Sacral neuromodulation : SNM)の確立を臨床工学技士ならびに手術室看護師と共に目指していきたいと考えています。地域医療構想が推進される中、「排便障害ケア」という新たな領域で少しでも地域医療に貢献していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



写真1



写真2



写真3

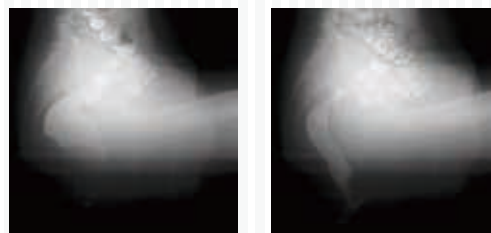


写真4

(岡田 和也 記)

# 連携病院のご紹介 きのした眼科



院長 木下 博文

はじめまして、「きのした眼科」院長の木下博文と申します。令和2年5月14日に光晴会病院の裏、JR道ノ尾駅のすぐ隣に新規開院いたしました。この度、光晴会病院の広報誌「あおぞら」の紙面をお借りし、当院の紹介をさせていただきます。

私は諫早市の出身で、地元の諫早高校から宮崎医科大学を卒業し、平成14年に長崎大学眼科医局に入局しました。その後は長崎市民病院や長崎医療センター、佐世保総合病院など長崎県下の総合病院などを回り、その後大学院に進学して基礎研究も行いました。大学院卒業後は、今年の3月に退職するまで10年ほど大学病院に勤務し、主に網膜硝子体疾患や眼腫瘍の診療にあたってまいりました。

当院では、眼鏡・コンタクトレンズ処方やさかまつげ、ものもらいといった一般眼科診療、さらにはレーザー治療や白内障手術のような手術治療により、子供からお年寄りまで地域に密着した医療を心がけていきたいと考えておりますが、これまでの経験も生かしながら、網膜硝子体疾患の治療も行っていきたいと考えています。近年、硝子体注射や硝子体手術などは様々な疾患の治療の第1選択となっており、少しでも地域内で治療を完結するお手伝いができればと考えております。もちろん、大学病院などとの連携も取りながら、状況に応じて適切に紹介なども対応させていただきます。

さて、昨今の新型コロナウイルス感染は、ちょうど当院の開院時期とも重なり、外出自粛や物品不足などいろいろと不都合がありましたが、少しずつ緩和されてきているような気がします。もちろん今後第2波なども懸念されており、まだ気は抜けない状態で、しばらくはコロナ時代として3密を避けながら生活するスタイルは続きそうです。現在日本における失明原因の第1位は緑内障で、2位が糖尿病網膜症となっていますが、どちらも早期発見、ならびに定期的な受診、治療が予後に関係してきます。コロナ感染の流行で、少なからず受診控えがあったと思いますが、密を避け体調に気を付けながら、検診もかねて受診していただければと思います。光晴会病院には透析室や糖尿病センターもあるようですので、糖尿病の患者様なども多いことと思います。すでに治療している方ももちろんですが、比較的軽症の方もまずは受診をすすめていただくようによろしくお願いいたします。

最後に、光晴会病院や近隣の医院の先生方にはすでにもいろいろとお世話になり、ありがとうございます。局所麻酔ではありますが当院で手術も行いますため、今後も全身疾患などご紹介させていただくことも多いと思います。ご迷惑おかけしますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



TEL 095-856-7770

診療時間	月	火	水	木	金	土
09:00~12:00	○	○	○	○	○	○
14:30~18:00	○	手術	○	/	○	/

■休診日/日曜・祝日



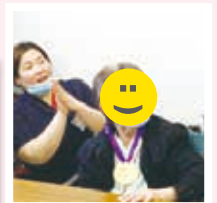
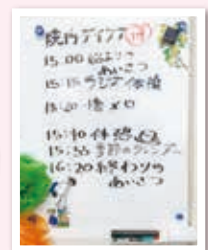
# 院内デイケアチーム“絆”

“はじめまして✿院内デイケアチーム“絆”です”

一世紀をきたた人を百寿者、センテナリアンといいます。2018年100歳以上人口は69785人となりました。急速な社会変化とともに、人生100年の百寿社会を迎えようとする中、認知症やせん妄を伴う入院患者さんは益々増加すると想定されます。特に急性疾患を患い入院してこられる患者さんは、認知症によるBPSDやせん妄を引き起こすリスクが高くなります。2012年、認知症看護認定看護師となった頃より、急性期病院であっても、認知症のある人や、せん妄を併発した患者さんに対し、非日常的な入院生活の中でも、日常生活のリズムをつけ、看護師などが企画した行事や催し物に参加してもらえる場を提供したいと考えを巡らせてまいりました。マンパワー不足もあり、長年叶わぬ夢となっていました。ようやく、看護部、認知症サポートチーム、多くの皆さんの支援のもと、2020年3月に院内デイケアチーム“絆”が発足しています。週1回、1時間半程度の院内デイケアではありますが、生活の活性化を図ることにより、安静制限による身体機能低下や、せん妄の併発、認知機能低下の進行、経口摂取困難、廃用の進行という状態変化を予防していきたいと考えています。さらに、辛い入院生活の中に楽しみとしていただき、居心地のよい病院となれるよう思考をこらし、認知機能障害へもアプローチしていく所存です。“絆(きずな)”は、認知症ケア専門士4名(看護師、精神保健福祉士、薬剤師)と作業療法士1名、認知症看護認定看護師1名で構成され、看護部や事務部からも応援いただきながら活動しています。本日は活動の中心にいる認知症ケア専門士の田川・太田の想いを紹介させていただきます。(認知症看護認定看護師:福田康恵 記)

## ・院内デイケアプログラム

- 15:00～はじまりの挨拶・リアリティオリエンテーション・自己紹介・ラジオ体操
- 15:15～歌謡曲(参加者の年代に沿って選曲)
- 15:30～トイレ休憩(お茶・コーヒー)
- 15:45～レクリエーション(参加者に合わせて変更)
- 16:20～帰りの挨拶・外を散歩し季節を感じていただきながら帰室



✳院内デイケアでは、まず懐かしい歌やラジオ体操でリラックスしてもらい、季節に合わせた壁画やカレンダー作成ではリアリティオリエンテーションを目的とし、手作りのすごろく人生ゲームでは回想法を目的としています。3月から始めたばかりでどんなふうに話をしたらいいか、どんな作業がよいかと、毎回手探りの中、チームで打ち合わせを繰り返し開催しています。「カラオケに行ってきたよ」「楽しかった～」「頭痛かったけど、ここ（院内デイ）では、病気でいるのを忘れた」という患者さんの声をきくことができ、励みとなっています。病棟で易怒性の強かった患者さんも、楽しそうに歌い、工作で出来上がった作品をみて感動して涙を流されています。認知機能低下予防や日常生活のリズムが整うことも院内デイに期待している効果ではありますが、まずは“絆”で過ごす時間が楽しい時間になればと思っています。

(認知症ケア専門士・泌尿器科病棟看護師:田川文恵 記)

✳院内デイケアを通して、曲を聴いて幼少期・壮年期を思い出して涙を流すひともあり、日頃の療養生活の場では知ることのない「その人」が見えてくることを実感しています。その時間を共有できたことで、その人の背景を知り関わっていくことの重要性を再認識しました。自分たち自身、病気や怪我を経験したことがあっても、高齢になることは経験したことがありません。経験のない状況を体験されている患者さんへ、どのように関わっていくか、どのようなケアを提供していくか、手探りのなか、チームで毎回打ち合わせと評価を繰り返し、会を積み重ねております。レクレーションで四季を感じていただき、共有していくことで、リアリティオリエンテーションにつながるよう関わりをもってまいります。患者さんご本人とご家族、病院スタッフにとって、院内デイケア“絆”が“あってよかった”と思える存在になれば幸いです。

(認知症ケア専門士・外科病棟看護師:太田美和 記)

## 春季防災訓練を行って

6月26日(金)、画像診断科・クラーク課・高度治療室・北4階病棟を中心に、2020年度春季防災訓練を行いました。今回は、新型コロナウイルス対策も考慮した訓練でもあり、対策本部周辺の密状態回避のため、訓練後の消火器取扱い実施演習は少人数のみとさせていただきました。その為、まだ実際に消火器を手にとって使ってみたことのない職員の方々も多くいると思います。あらためて今一度、自分が所属している部署や周辺の消火器設置場所の確認など、意識してみたいかがでしょうか。

さて、本題である訓練内容ですが、夜間21:00に北4階病棟デイルーム内漏電による火災発生を想定し、病棟看護師を中心に初期消火～避難誘導までの一連の過程を実施しましたが、多くの気づきや学びを得ることができました。中でも担当した職員は、この訓練を通してどのような行動をとるべきか改めて考え、部署内での計画的な訓練の必要性について学ぶことができたようです。総評で指摘を受けた、初期消火(火事だ!と大声で叫ぶ)・通報(初期消火の実施の有無を伝える)・避難(防火扉はすぐに閉めてよい)の3原則をしっかりと頭におきながら、次回の訓練に役立てたいと思います。また、発生元の職員だけでなく、応援に駆けつけた場合の行動についても、リーダーからの指示待ち状態にならないように、自ら声かけをして迅速な対応ができるよう働きかけることも必要だと感じました。そのためにも、担当部署だけでなく応援者に対する事前準備とシミュレーションなども、今後の課題ではないかと思いました。

担当者全員が揃っての事前のシミュレーションも十分にできないまま当日を迎え、終了するまで緊張して顔をこわばらせながらも頑張っていた職員のみなさん、お疲れさまでした。

北4階病棟 山下 志保



# 外来週間診療予定表

令和2年8月現在

	月	火	水	木	金	土
内科	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)	みやぞえ ゆり 宮副 由梨 (消化器)	よしおか まさと 吉岡 正人 (一般)	みやぞえ ゆり 宮副 由梨 (消化器)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)	よしもと せいし 吉本 静志 (心療内科) <b>(午前) 不定期休み</b>
	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎・一般)	ひらい たつひろ 平井 達大 (腎・一般)	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)	おおつぼ としお 大坪 俊夫 (腎・膠原)	しばた りゅうじろう 柴田 龍二郎 (一般)	いずみ もともし 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)
	いずみ もともし 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)	まつたけ とよし 松竹 豊司 (呼吸器)	ながよし ようすけ 永吉 洋介 (呼吸器)	まつたけ とよし 松竹 豊司 (呼吸器)	ながよし ようすけ 永吉 洋介 (呼吸器)	
		あかほし ひろし 赤星 浩 (消化器)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)	あかほし ひろし 赤星 浩 (消化器)	いずみ もともし 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)	
			しばた りゅうじろう 柴田 龍二郎 (一般)			
循環器内科	こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦		こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦	
心臓血管外科	ふるたち あきら 古舘 晃	こが きよかず 古賀 清和		ふるたち あきら 古舘 晃	こが きよかず 古賀 清和	
泌尿器科	やました しゅうじ 山下 修史	やまさき やすと 山崎 安人	やましたしゅうじ 山下修史	大学医	やまさき やすと 山崎 安人	
外科	おかた かずや 岡田 和也	おかた かずや 岡田 和也	大学医	すすも せいや 進 誠也	すすも せいや 進 誠也	
	きしかわ ひろき 岸川 博紀	みよし たかゆき 三好 敬之	きしかわ ひろき 岸川 博紀	きしかわ ひろき 岸川 博紀	たなか しろろう 田中 史朗	
			たなか しろろう 田中 史朗	やまくち いずみ 山口 泉	よしもと ひろし 吉本 浩 (形成外科)	
【午後】 14:00 ～ 16:00		おおつぼ としお 大坪 俊夫 (腎臓病疾患専門)	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎臓病疾患専門)	よしおか まさと 吉岡 正人 (一般)	しみず としまさ 清水 俊匡 (リウマチ専門)	
	【午後】 13:00 ～ 15:00		<b>第1・3・5週</b> こが きよかず 古賀 清和 (下肢静脈瘤専門)			
		ふるたち あきら 古舘 晃 (大動脈専門)				
糖尿病センター 9:00 ～ 12:00	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	
	かわはら ひろみ 川原 仁美	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳 フットケア	せら やすのり 世羅 康徳	

※ 診療科目：内科・外科・泌尿器科・循環器内科・心臓血管外科・消化器科・リウマチ科・リハビリテーション科・呼吸器科・腎臓内科・形成外科・肛門外科・糖尿病内科・麻酔科

※ 診療受付時間：午前8：30より 午前11：30まで ※ 予約制ですので、できるだけ予約をお願い致します。

光晴会病院 地域医療連携室 TEL 095-857-3563 (直通) FAX 0120-573-632 (直通)

## (コミュニケーションマガジン) 編集委員

編集・発行責任者：岡田 和也

編集スタッフ：金子(顧問) 佐々田(南4階) 川口(南5階)

尾上(医事課) 平尾(クラーク課)

岩永(地域医療連携室) 吉野(臨床検査科)

## 特定医療法人 光晴会病院

〒852-8053 長崎市葉山1丁目3番12号

TEL095-857-3533 FAX095-857-2572

http://www.kouseikai.org/